

コラム：都市における高齢者の「セルフ・ネグレクト」

誰からも支援を得ることができず、「支援の谷間」に落ちる人が都会の片隅にいます。その中で、「セルフ・ネグレクト」という問題が近年注目されています。セルフ・ネグレクトとは、衣食住や医療・福祉サービスなど自らの健康や安全の維持に必要な物や支援を得ることができずに放任されている状況を指します。認知症や精神的な病気、または様々な事情のために意欲が低下し、意図せず、そのような状態になっている場合と、本人の意思によって、そのような状態になっている場合があります。

《セルフ・ネグレクトの例》

- ・家の前や室内に、ゴミが散乱している
- ・極端に汚れた衣類を着ていたり、尿や便がもれていても放置している
- ・窓や壁に穴があいていたり、壊れかけた家に住んでいる
- ・認知症や介護を必要とする状態であっても、介護サービスを拒否している
- ・病気やケガをしていても、治療を拒否している

2012年に東京都の民生児童委員を調査した結果、約4割が担当地区にセルフ・ネグレクトの人がいると回答していました。この調査結果では、セルフ・ネグレクト状態の約6割が女性でした（図1）。ひとり暮らしが75%と多いのですが、4分の1は同居者がいて、その場合は家族全体が問題を抱えていました（図2）。セルフ・ネグレクト状態になった要因や背景は、認知症や精神疾患、アルコール依存症、けがや病気といった「心身の健康問題」、ひとり暮らしや家族との離別・死別による「孤独」、家族によるネグレクトや家族が支援を拒否する等の「家族の問題」、「貧困」、人間不信や過去に複雑な事情があるため「人との交流を回避」等がありました。これらの要因や背景をみると、セルフ・ネグレクトは一部の特殊な人だけでなく、誰にでも生じうる問題といえます。セルフ・ネグレクトを「特殊な人」の問題とせず、多くの人を経験しうるものとして捉え、その背景にある問題を把握し、対応することが重要です。背景にある問題を無視してゴミだけを強制的に撤去したとしても、いずれまたゴミをため込む結果になるでしょう。支援策としては、「見守りができる地域づくり」「背景要因に着目した制度・政策対応」「専門機関・関係職種の連携」「アウトリーチ」「精神的なケア」等が求められています。

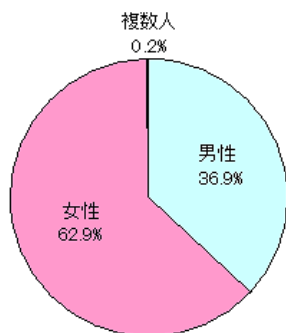


図1 セルフ・ネグレクト事例の性別

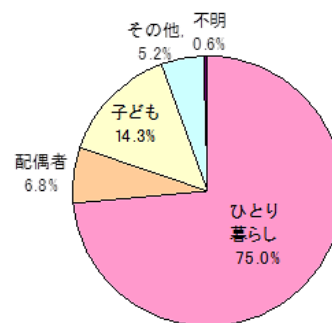


図2 セルフ・ネグレクト事例の同居者